

TERMINOLOGY of Internet

TERMINOLOGY

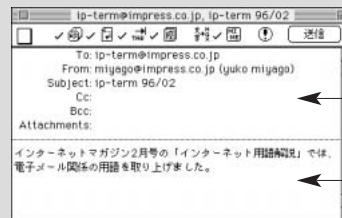


■ 電子メール(electronic mail, e-mail)

コンピュータのユーザー同士がインターネットや他のネットワークを通じてメッセージを交換するためのシステムのこと。一般にはメッセージ自体を指すことが多い。電子メールのメッセージはヘッダーと本文から構成され、ヘッダーには宛先やサブジェクト、Ccなど、メッセージの配信に必要な、いわば封筒の表書きにあたる情報が含まれている。本文には実際のテキストが入るが、MIME（マルチメディアに対応するための拡張仕様：1995年12月号で解説）に対応している電子メールプログラム（メーラー）を使えば、音声や画像などのバイナリファイルを添付（同封）して送ることもできる。電子メールシステムはインターネットの機能の一部ではあるが、メーリングリストへの参加、アーカイブサイトからのデータの入手など、ツールとしても使うことができる。米国では従来の郵便を愛情を込めてsnail mail（カタツムリメール）、日本ではお役所仕事を揶揄して郵政省メールと呼ぶこともある。

■ Cc【シーシー】

Carbon copy（カーボンコピー）の略。電子メールメッセージのヘッダーを構成する行の1つであり、メッセージのコピーを送付する相手の宛先を指定する。タイプライターで書類を作成していた時代、カーボン紙を間に挟んで複写を取って送付していたことに由来する。関係者全員に同じ内容の情報を伝えるためにCcを使用するが、Ccにリストされている受取人には、返事を出す義務はない。単なる情報としてメッセージを受け取ることにになるが、常に情報を共有し続けることによって、長期休暇や異動などの状況変化にすばやく対処することが可能になる。Ccを「同報」と翻訳している場合もあるが、Ccの受取人はメールの宛先に記されている受取人とは異なるので、そのままの意味で「複写」とすべきであろう。



← 電子メールのヘッダー

← 電子メールの本文

電子メールの例

■ Bcc【ビーシーシー】

Blind carbon copy（宛先匿名のカーボンコピー）の略。Ccと同様にメッセージのコピーを送付する宛先を指定する。ただし、元のメッセージ中にはコピーを第三者に送付していることは表示されない。本来の受取人以外にも内密にコピーを送付したいときに使う。

■ シグニチャ(signature)

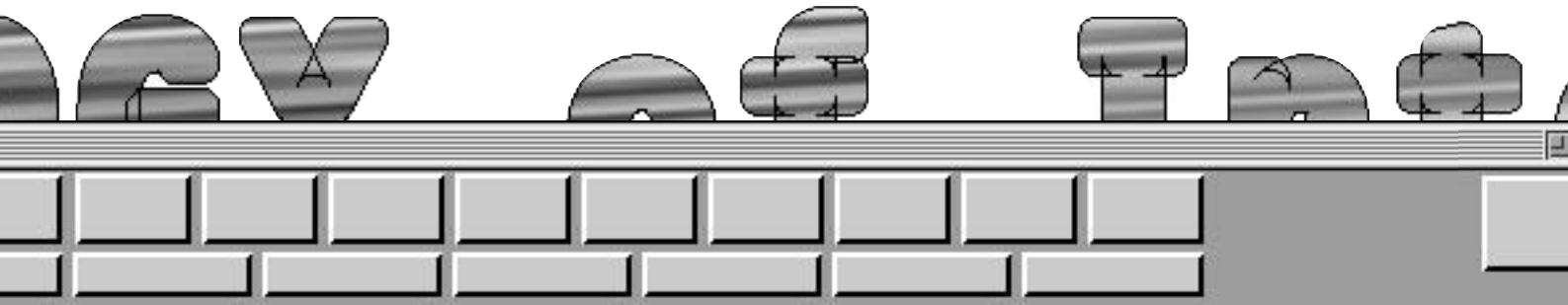
封筒の裏書きにあたる数行のメッセージ（署名）のこと。電子メールの本文の末尾にあって、通常は本名や所属機関、連絡先などを記述する。格言、ジョーク、アスキーアートなどいろいろな情報が入れている場合もある。署名はあってもなくても構わないが、最小限、名前程度は入れるのがネチケットになっている。自宅の電話番号やクレジットカード番号といったプライバシーに関わる情報は避けたいほうが賢明。本人認証のための電子署名（デジタル署名）と区別するため、シグニチャと呼ぶことが多い。

■ サブジェクト(Subject)

電子メールのヘッダーを構成する行の1つ。メッセージの件名を指定する。サブジェクト行が日本語に対応していないシステムもあり、文字化けを起こす可能性があるため、この行には英数字を使うことが望ましい。また、件名はメッセージの主題が何であるかを相手がすぐに理解できるような内容にすべきであり、単にSend informationとするのではなく、Requesting information about Internetのように用件を説明するほうがよい。

今回は電子メール関係の用語を中心に解説しました。ご意見やご要望をお待ちしています。

E-mail to : **ip-term@impress.co.jp**



■ アスキーアート(ASCII art)

ASCII文字セットだけで描いた絵のこと。コンピュータが使用される以前から、タイプライターやテレタイプで作成されていた。ASCII文字は、どんな電子メールシステムでもそのまま送ることができ、なおかつビューアーが必要な画像ファイルに比べて簡便に利用できるという特徴がある。スマイリーもアスキーアートの一種にあたる。インターネットではシグニチャなどでアスキーアートを見ることができる。

```
  H _H  
 (O.O)  
  > ^ <
```

ASCII ART GALLERY

URL:<http://www.ioc.ee/~valdo/ascii/english.html>

■ スマイリー(smiley)

感情を伝えるために使う文字絵のこと。画面に表示された電子メールやニュースの記事は無機質であり、ややもすると無愛想な感じを相手に与えかねない。そのため、ユーモアのつもりでも皮肉が込められていると誤解されるおそれがあり、これを避ける手段としてスマイリーを使うことがある。ただし人によって好き嫌いがあり、過度の使用は好ましくない。欧米では笑顔(:-))で表し、日本では苦笑(^_^)としており、おもしろいことに横向きと縦向きの違いがある。スマイリーはエモティコン(emoticon)あるいはフェースマーク(顔文字)と呼ぶこともある。emoticonはemote(感情を表す)とicon(アイコン)の混成語。

■ After care

■ ハッカー(hacker) コンピュータやネットワークについて深く理解し、それらの性能を引き出す能力を持っている人々のこと。流行語にならざれば「コンピュータネットワークの鉄人」と言える。一方、コンピュータ犯罪に及ぶ行為全般をハッキング(hacking)と呼ぶことから、コンピュータシステムに不正侵入し、コンピュータを悪用して詐欺を行ったり、システムに損害を与える者を指していることが多い。悪用する人物をクラッカー(cracker)と呼んで区別す

■ メーリングリスト(mailing list)

複数の電子メールアドレスを登録したリストのこと。このリストは単なる電子メールアドレスの1つとして取り扱うことができる。メーリングリストは複数の電子メールアドレスのエイリアス(別名)として機能し、リストに宛てて送付されたメッセージは、リストに登録されているすべての電子メールアドレスに転送される。つまり、リストに誰かがメッセージを送付すると、メーリングリストの参加者全員に同じメッセージが送付される。そのためメーリングリストは特定のテーマに関心を持つ人々が議論し情報を交換するためのメディアとして利用されることが多い。

■ ネチケット(netiquette)

ネットワーク社会において求められている礼儀のこと。netiquetteはnetwork(ネットワーク)とetiquette(エチケット)の混成語。コンピュータネットワークが日常生活の一部になり始めている今日では、使用にあたってはそれなりのルールやマナーが必要になってきている。誹謗中傷が目的の悪戯メールは無論のこと、長文のメッセージや無意味なメッセージもネチケット違反になる。インターネットから電子メールを受信するとき、商用オンラインサービスによっては特別に課金されることがあり、また通信基盤の整っていない国や地域では通話料金の高い国際電話でUUCP接続していることもあるので、事情によってはむやみにメッセージを送付しないことが望ましい。

ることもあるが、クラッカー自身が好んでハッカーと称しているため、本来の意味から離れて、現状では使用に混乱が見られる(前号で解説した「ハッカー」について、宮原直人さん、中川好久さん、小田嶋勝也さんからご指摘いただきました)。

■ PGP Pretty Good Privacyについて慣用的に使われている日本語訳はありませんが、意味は「ほぼ完全なセキュリティ」のことです。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp